

## 本日の為替見通し

## ポイント

レスラー独経済相、「ギリシャが財政再建を果たせなければ EU などに予算の権限を委譲すべき」、ベニゼロス・ギリシャ財務相は「予算の主権放棄」の提案は「国家の尊厳」に関わり、断固拒否……。

EU 首脳会議は、とりえず懸念の財政協定をチェコと英国を除く EU25 カ国で同意、3 月の首脳会議で署名することを発表、そして、欧州安定化メカニズムの規定を承認し、ギリシャに経済計画を軌道に戻すことを求めた。

しかし、肝心のファイアウォールの増強議論もなく、ギリシャに関しては、トロイカ調査団の報告や IMF の調査結果を待ってから議論をするということで、先に持ち越され、今週中に合意との発言が多く聞こえてきたが、どのように決着するのか結論を見ないと安心することはできない。

ユーロ安、コモンウェルス通貨安、金・原油安、債券安、まさにリスクオフの流れが見られたが、その中で、USDJPY 最近のレンジの下限 76.50 を割り込み円高が加速一時 76.20 台まで下落。EURJPY は一時 100 円を割り込み、AUDJPY は一時 80.50 台へ円高が進んだ。

昨日、ムーディーズは日本の格付けに対して「2015 年までに政府債務目標未達なら日本国債格付けにマイナスで、税制改革が実行されても 2020 年までの基礎的財政収支目標は達成されず」と、警鐘したが、円売りは全く見られず。

今までならば、政府・日銀の円売り介入の出動期待が高まっていたことであろうが、先に米政府が米議会へ向けた為替報告書で日本の円売り介入に不快感を示し、今のところはトークアップ発言だけに限定される可能性が高く、頼りの綱は日本企業による海外企業の買収に絡むドル買いだけに思える。USDJPY 相場のことだから、かといって、急落するリスクも少なく、75.50~77.00 円で今までと変わらずレンジ相場が続く可能性が残る。

11 目にしてようやく大きな陰線引けとなる EURUSD が売りに反転する可能性もテクニカルでは見られ、再び EUR 売りの流れに変わるリスクもあるが、市場参加者のポジションは引き続き EUR ショートに傾いており、そう簡単に反転を許すか、今後のギリシャ債務交換協議が結果を待たなければならない。

## マーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25 日指数移動平均線は 1.2992、この線を下限に上昇を続けている。DOPup=1.3359、DOPdn=1.2703。スロー・ストキャスティックは %K=84.94、%D=83.46、売り変化の兆しがあり、ベースは買われ過ぎゾーン。

EURJPY(日足) = 25 日指数移行平均線は 100.21、この線を下限に下げ止まっている。DOPup=103.09、DOPdn=98.40。スロー・ストキャスティックは %K=73.16、%D=78.61、売りへ変化し、ベースは買われすぎゾーン。

USDJPY(日足) = 25 日指数移動平均線は 77.13、この線を割り込み下落がしている。DOPup=78.93、DOPdn=76.40。スロー・ストキャスティックは %K=42.11、%D=53.06 で、売りへ変化、ベースはニュートラルゾーン。

## 本日のCFD見通し

## ポイント

ギリシャ債務交換協議の合意が見られず、ポルトガル債券の利回りは過去最高まで上昇、ギリシャの次はポルトガルとの思惑がリスクアセットの売りを招いた。昨日と同じく、原油価格は引き続きレンジ内で推移し、金価格は一時大幅に値を下げたが、実需筋の買いに底堅く終値では値を戻し、実需の買いが強いことが確認された。

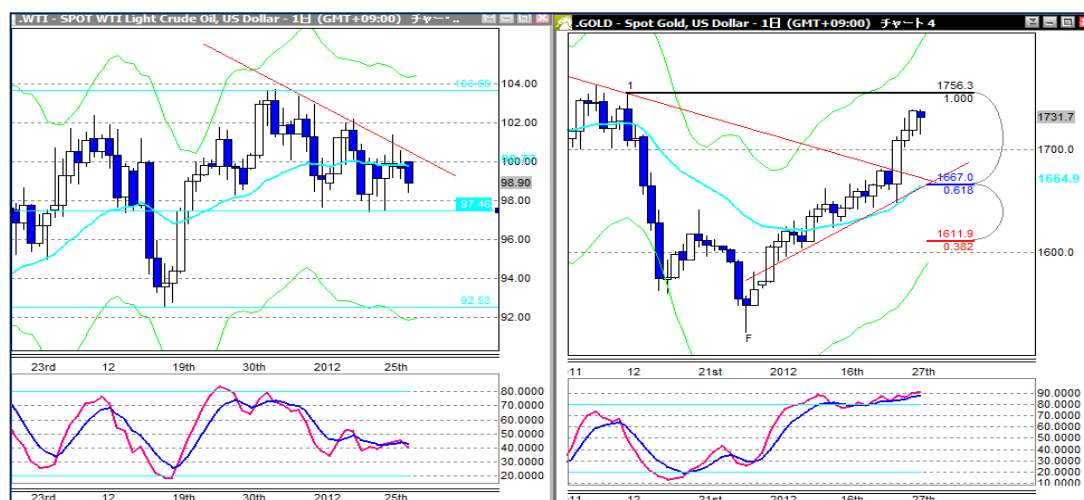
## ◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMAは99.78で引き続きこの水準を中心とした値動きが続き、97.46を底値にしながらも上値は徐々に切り下がり、上下に再び動き始める可能性が高まっている。上値のポイントは103.69、104.33。下値のポイントは97.46、92.53。

## ◎Spot.Gold

EMAは1664.86で引き続き上昇トレンドを維持しながらも、乖離は拡大し調整が入りやすくなっている。昨日も調整売りと思われる大口売りに1715近くまで値を下げたが、実需などの買いもあり反発した。上値のポイントは1756.3、1804.8。下値のポイントは1667.0、1611.9。

## マーケット・レベル



Spot.WTI(Light Crude Oil) (.WTI 日足) = 25日指数移動平均線は99.78、この線を終値では下回り、これを中心とした取引が続いている。DOPup=104.33、DOPdn=92.86。スロー・ストキャスティックは%K=41.08、%D=43.11で、サインは不透明、ベースニュートラルゾーン。  
Spot.Gold(.GOLD 日足) = 25日指数移行平均線は、1664.86、この線を下限に上昇している。DOPup=1804.08、DOPdn=1579.57。スロー・ストキャスティックは%K=91.07、%D=88.48で、上昇トレンドの継続にはっきりとせず。ベースは買われ過ぎゾーンで継続。

## 1月31日(火曜日) 注目の経済指標 その他

## 発言・その他

米議会予算局が「予算と経済見通し」を公表 (午前零時)

## 注目の経済指標

英 GFK 消費者信頼感指数  
独 失業率  
ユーロ圏 失業率  
カナダ GDP  
米 シカゴ購買部協会景況感指数  
米 消費者信頼感指数

1月31日(火曜) 本日の主な経済指標と発表予定

6:45	NZD 12月	住宅建設許可=前月比予想 8.0% 前回-6.4%
8:30	JPY 12月	失業率=予想 4.5% 前回 4.5%、有効求人倍率=予想 0.70 前回 0.69
8:50	JPY 12月	鉱工業生産・速報=前月比予想 2.9% 前回-2.7%、前年比予想-5.0% 前回-4.2%
9:01	GBP 1月	GFK 消費者信頼感調査=予想-32 前回-33
9:30	AUD 12月	NAB 企業景況感指数=予想 前回 1、企業信頼感指数=予想 前回 2
17:55	GER 1月	失業率=予想 6.8% 前回 6.8%、失業者数=予想-5000人 前回-22000人
18:30	GBP 12月	消費者信用残高=予想 前回 4億ポンド
18:30	GBP 12月	住宅ローン承認件数=予想 前回 52900件
19:00	EUR 12月	失業率=予想 10.4% 前回 10.3%
22:30	CAD 12月	鉱工業製品価格=前月比予想 前回 0.2%、原材料価格指数=予想 前回 3.8%
22:30	USD 第4四半期	雇用コスト指数=前期比予想 0.4% 前回 0.3%
22:30	CAD 11月	GDP=前月比予想 0.2% 前回 0.0%、前年比予想 前回 2.7%
23:45	USD 1月	シカゴ購買部協会景気指数=予想 63.0 前回 62.2
0:00	USD 1月	消費者信頼感比数=予想 68.0 前回 64.5

先週末(1月30日)の海外市場の動き

- ◎EU 首脳会議を控え、リスクオフの流れに、先週末まで堅調に推移いたコモンウェルズ通貨は弱く、金・原油価格も大きく値を下げた
- ◎ EU 首脳会議は、1. 欧州安定化メカニズムの規定を承認 2. ギリシャに経済計画を起動に戻すことを求める 3. 財政協定は3月の首脳会議で署名、協定にはチェコと英国を除き EU25 カ国が署名したが、4. ファイアウォールの増強議論はなく、5. ギリシャの議論は短時間で終了した
- ◎レスラー独経済相、フィックス議員、バーセル議員など、ドイツ複数の幹部議員はギリシャ予算の主権放棄を求め、同意がなければ支援拒否を主張→ ベニゼロス・ギリシャ財務相は、EU 特別委員の「予算の主権放棄」の提案は、「国家の尊厳」に関わり、拒否した→ EUR 売りの材料となる
- ◎ USDJPY は、最近のレンジ相場の下限 76.50 を割り込み、一時 76.20 台まで下落。EURJPY は一時 100 円を割り込み、AUDJPY は一時 80.50 台へ円高が進む
- ◎ポルトガル 10 年債利回りは 17.39%とユーロ導入後の高値を更新し、デフォルト発生確率 71%に上昇→ ポルトガルのギリシャ化が懸念に債券利回りは上昇し、EUR 売りの流れが強まる
- ◎ユーロ圏の景況感指数は下方修正後の前回より上昇したが、市場予想と同じ、一部の指数は改善兆候を示した→ 相場への影響はない
- ◎イタリア国債総額 75 億ユーロの大量入札は順調に消化したが、発行市場では金利上昇→ 先週金曜日にフィッチがイタリアの格付けを 2 段階格下げ、本日の入札が目玉された。5 年債、10 年債は利回りは大幅に低下したが、発行市場では 6%超と先週より利回りは上昇、EURUSD の売りは止まらず 1.3120 台を割り込む
- ◎EURCHF 一時、1.2040 を割り込み昨年 9 月半ばの水準まで下落したが、大口の買いに下げ止まる
- ◎米個人所得は 0.5%と予想・前回は上回り伸びが拡大、個人消費支出は前月比 0.4%と前回は下回るが、PCE 価格指数の前年比は前年比 2.4%と FOMC 目標値の 2.0%を前月に続き上回る→ 相場への反応はなし
- ◎独消費者物価指数・速報値は、前年比 2.0%と予想と一致、
- ◎プロッサー・フィラデルフィア連銀総裁は、政策金利は年内に引き上げる必要になる可能性→ 市場への反応はなし

USDJPY アジア市場は 76.70 を中心に大枠 76.65~75 のレンジで取引が続いた。欧州市場に入っても同意は薄く、先週は円売り傾向が続いていた EURJPY や AUDJPY などのクロス円で円買い戻しに、上値は重く、大枠 76.62~75 のレンジで取引が続いた。米国市場に入り、米国株が値を下げ、USDJPY は昨年 10 月 31 日の安値を更新、76.50 割れのストップを付け 76.30 台まで下落、戻りも 76.40 が限度で 76.20 台まで続落となった。

EURUSD アジア市場は取引開始直後の 1.3227 を高値に、ギリシャ債務交渉で合意に至らず今日の EU 首脳会議で議題に上る可能性も低いことで、リスク回避の動きとポジション調整の売りに 1.3140 台まで続落となった。欧州市場は、欧州株価は弱く、リスクアセットの売りが続き、ポルトガル 10 年債利回りが最高値を更新、イタリア国債の入札は順調に消化、前回より利回りは低下したが、発行市場では 6%に上昇、1.3110 割れまで EUR 売りの流れが続いた。米国市場に入っても、EU 首脳会議でギリシャ支援の合意がないとの報道や、株価が続落するなかで一時 1.3080 割れまで下落、ソブリン勢の買いや、株価が徐々にマイナス幅を縮小し、1.3140 近くまで値を戻した。

AUDUSD アジア市場は取引開始直後の 1.06520 台を高値に、フィッチが S&P やムーディーズに追従しオーストラリア 4 大銀行の格付けを 1 段階引き下げる可能性を示唆、ギリシャ債務交渉で合意に至らず今日の EU 首脳会議で議題に上る可能性も低いことで、リスク回避の動きとポジション調整の売りに 1.0560 割れまで下落した。欧州市場に入り、一時 1.0520 台まで続落となったが、実需筋の買いが続き下げ止まり、大枠 1.0525~65 のレンジで取引が続いた。米国市場に入っても、EURUSD の下落にもかかわらず実需筋の買いがサポートし、暫く大枠で 1.0525~65 のレンジから、金価格の上昇の流れに 1.0600 近くまで値を戻した。

## 金・原油価格

◎イラン→一部の国への石油輸出を近く停止する。EUへの原油売却停止法案の審議は延期

◎バドリ OPEC 事務総長→イランに対する禁輸措置は市場の変動リスクを高める。過剰供給に対する懸念はなく、日量 60 万バレル引き上げて新ターゲットの日量 3000 万バレルを超えても問題ない。原油価格は 100ドル程度が生産・消費者にとって良いレベル

◎米東部海外のスノコとフィリップスは不採算の精製能力の 24%を占める製油所が閉鎖。ホベンサ・ベネズエラ石油は、2月にバージン諸島の製油所の閉鎖を発表

◎CFTCの週間建玉報告→ヘッジファンドはガソリン買い越し過去最高へ、需要に応じられなくなるリスクを懸念

## ◎Spot.WTI (Light Crude Oil)

アジア市場は、取引開始直後の 100 近くを高値に、98.70 近くまで続落となった。欧州市場に入ると売りの流れは弱まり、98.70 近辺を底値に、大枠 98.70~99.25 のレンジで取引が続いた。米国市場では、株価の下落にリスクアセットは弱く、98.50 近くまで下落、株価が徐々にマイナス幅を縮小し、金価格が上昇する中で、99.60 近くまで値を戻したが、短期投機筋の売りに 98.40 台まで下落、99.00 を中心に上下に振れる動きが続いた。

## ◎Spot.Gold

アジア市場は、取引開始直後の 1739.3 を高値に 1730 割れまで続落となった。欧州市場に入っても売りの流れは止まらず、一時 1715.8 まで続落しようやく下げ止まり、大枠 1718~22 のレンジで取引が続いた。米国市場に入ると、1720 以下の実需の買いは厚くサポートされ、1733 台まで上昇、大枠 1727~33 のレンジで取引が続いた。

## 昨日(1月30日)の主な発言・出来事

EU 首脳会議	ファンロンパイ EU 大統領 = ◎欧州安定化メカニズムの規定を承認 ◎ギリシャに経済計画を起動に戻すことを求める ◎財政協定は 3 月の首脳会議で署名、協定にはチェコと英国を除き EU25 カ国が署名
欧州連合 (EU) スポークスマン	= ◎財政協定で合意、EU 首脳が財政均衡を義務付け、違反国に政策を迅速化する ◎未使用の構造基金の再調整で合意
メルケル独首相	= ◎ファイアウォールの増強は議論されなかった ◎ギリシャへの決定にはトロイカ報告書が必要 ◎ギリシャ債務の GDP 比 120% を目指す ◎財務相がギリシャの経済プログラムを協議 ◎首脳会議の焦点は失業と財政ルール
パロゾ欧州委員長	= ◎数日中にギリシャに関する合意を予想 ◎ギリシャの議論は短時間
ユンケル・ユーログループ議長	= ◎ギリシャの債務交換は週末までに合意望む
ゴエリヨ・ポルトガル首相	= ◎ポルトガル債券保有者への債務減免のリスクは無い ◎ポルトガル債務は持続可能 ◎EU は必要ならばポルトガルとアイルランド支援を約束
サルコジ仏大統領	= ◎ギリシャは EU 首脳会議の議題ではなかった ◎ギリシャの予算管理の EU 委譲に反対 ◎チェコは憲法上の理由で財政協定には署名しない ◎ギリシャの債務交換は数日中に決着 ◎2 月の首脳会議開催の可能性にはコメントせず
スウェーデン	= ◎成長促進の声明をスウェーデンが反対
メルケル独首相	= ◎EU サミットで第 2 次ギリシャ救済が最終決定されることはない ◎IMF の審査結果を待っている状態 ◎トロイカが現在ギリシャの作業中で、銀行との結果も出ていないためギリシャに関して踏み込んだ協議はしない
メルケル独首相	= ◎EU 首脳会議では危機の再発防止で、ドイツ型の財政均衡条約を盛り込んだ財政協定に関する最後の疑問点が明確になる
EU 当局者 (ロイター社)	= ◎EU 首脳は ESM の 7 月稼働で合意し、条約調印に向けて動く
2 月 8 日にギリシャ問題で EU 首脳会議再開のウワサ	

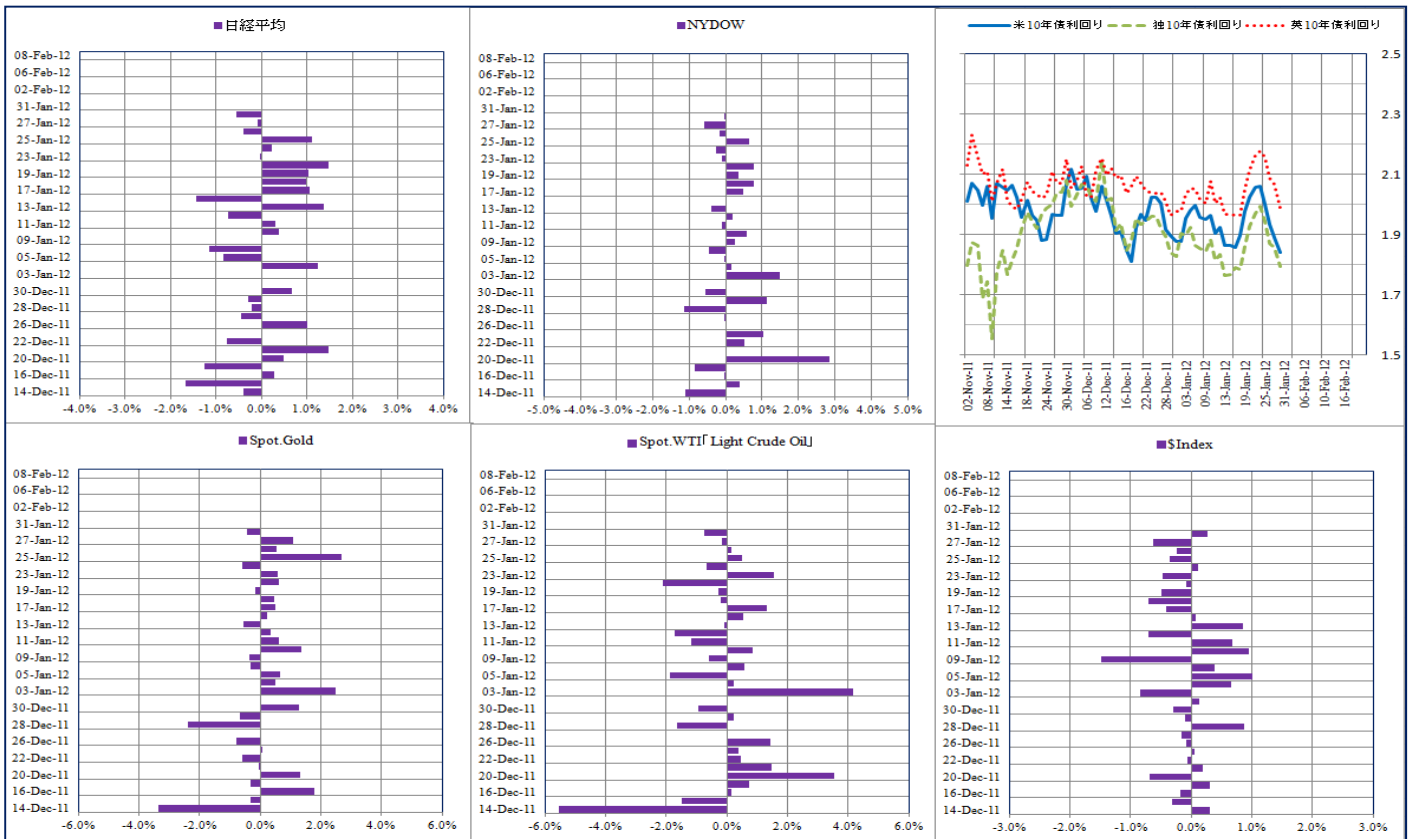
ギリシャ関連	
レスラー独経済相	= ◎ギリシャの財政再建を果たせなければ EU などに、権限を委譲すべき
フィックス議員、パーセル議員、ドイツ複数の幹部議員	はギリシャ予算の主権放棄を求め、同意がなければ支援拒否を主張
ベニゼロス・ギリシャ財務相	= ◎ギリシャ財政の主権の一部放棄を求める EU 特別委員の「予算の主権放棄」の提案は、「国家の尊厳」に関わり、拒否した
ユンケル・ユーログループ議長	= ◎ギリシャの予算を欧州当局の監視下に置くことは強く反対
パバンドレウ前ギリシャ首相	= ◎債務交換行協議で重要な進展があった
ショイブレ独財務相	= ◎欧州はギリシャ支援の準備がある ◎さらに綿密にギリシャを支援していく必要があるかもしれない

AUD	オーストラリア国債の上昇が終了に近いとの予想が多い＝◎中国が金融緩和に動く可能性があり、輸出主導の豪経済の景気を拡大し、インフレが加速するとの思惑。NABは豪10年国債利回りは現行の3.81%→3月末4.2%→年末4.7%と予想。ブルムバーグ金融機関調査の予測では、加重平均予測→第1四半期4.08%→年内4.44%。
AUD	フィッチ＝◎オーストラリア4大銀行の格付けを1段階引き下げる可能性 ◎S&Pやムーディーズに追従
JPY	ムーディーズ＝◎2015年までに政府債務目標未達なら日本国債格付けにマイナス ◎税制改革が実行されても2020年までの基礎的財政収支目標は達成されず
NZD	ボラード NZ 中銀総裁＝◎今年9月25日の期限切れで再任を求めない
USD	プロッサー・フィラデルフィア連銀総裁＝◎政策金利は年内に引き上げる必要になる可能性 ◎FOMCで2014年遅くまでゼロ付近に金利を維持する意向な確たる約束ではない、約束として解釈されるべきでなく、経済がどう展開するかに左右される ◎2012年末に失業率は8%近く、2012年と2013年のGDPは約3%に成長見通し
USD	SF 連銀・リサーチ＝◎長期化している米失業率は需要の低下が要因 ◎失業給付金の延長や若年層の労働市場参加の低下、労働省の算出の方法の変化も影響

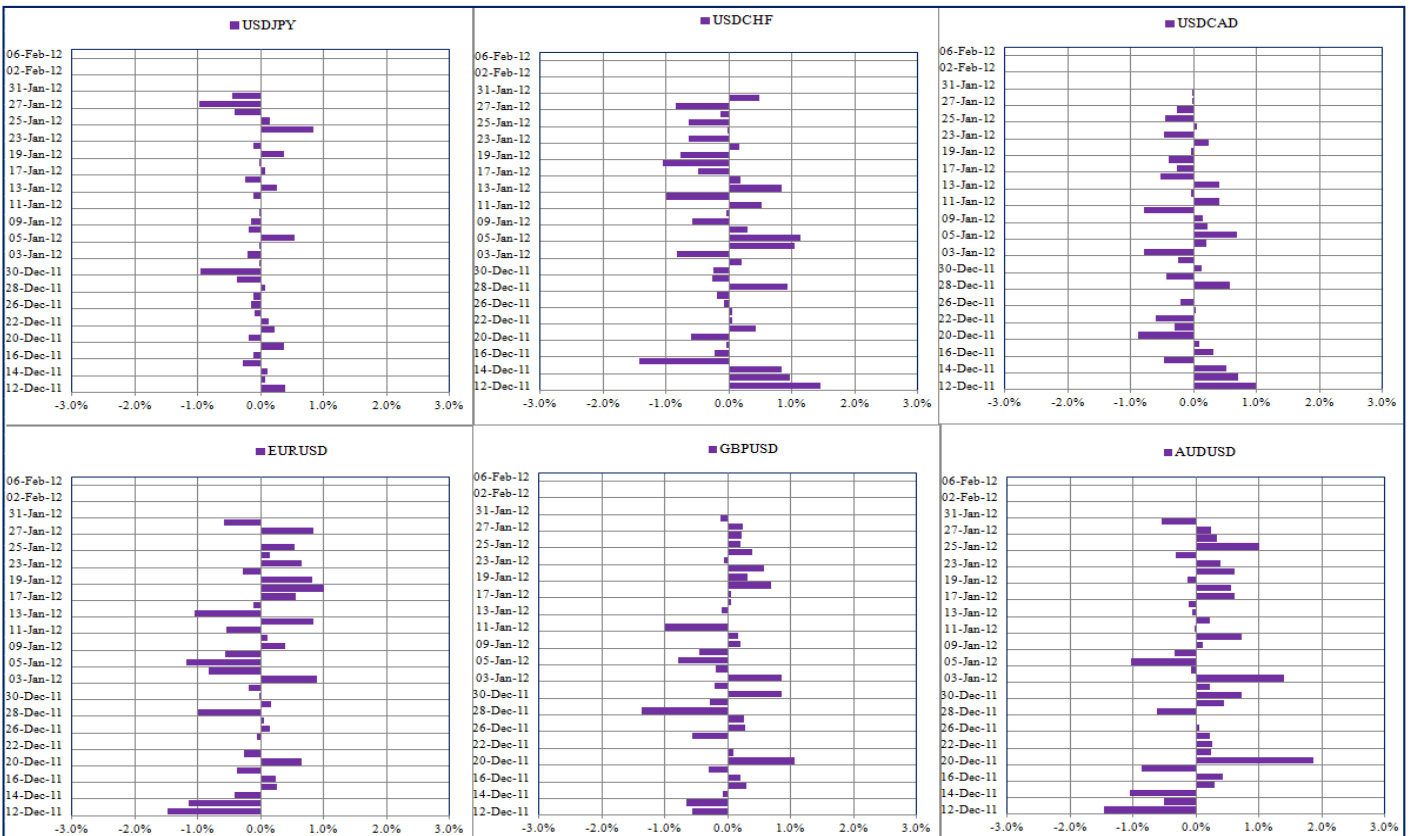
## 昨日(1月30日)の経済指標と結果

9:01	GBP 1月 ホームトラック住宅調査＝◎前月比0.0%(予想 前回-0.2%)、前年比-2.1%(予想 前回-2.1%)
19:00	EUR 1月 業況判断指数=-0.21(予想-0.25 前回-0.31)、消費者信頼感・確定=-20.7(予想-20.6 前回-20.6)、景況感指数(経済信頼感)=93.4(予想93.4 前回92.8←93.3)、鉱工業信頼感＝◎-7.2(予想-7.2 前回-7.1)、サービス業信頼感=-0.6(予想-1.6 前回-2.1)
22:30	USD 12月 個人所得=0.5%(予想0.4% 前回0.1%)、個人消費支出価格指数(PCEデフレーター)=前月比0.0%(前回0.1%)、前年比2.4%(予想2.3% 前回2.6←2.5%)、コア個人消費支出価格指数(PCEコア・デフレーター)=前月比0.2%(予想0.1% 前回0.1%)、前年比1.8%(予想1.7% 前回1.7%)
未定	GER 1月 消費者物価指数・速報=前月比-0.4%(予想-0.5% 前回0.7%)、前年比2.0%(予想2.0% 前回2.1%)、EU基準CPIの発表は延期となった

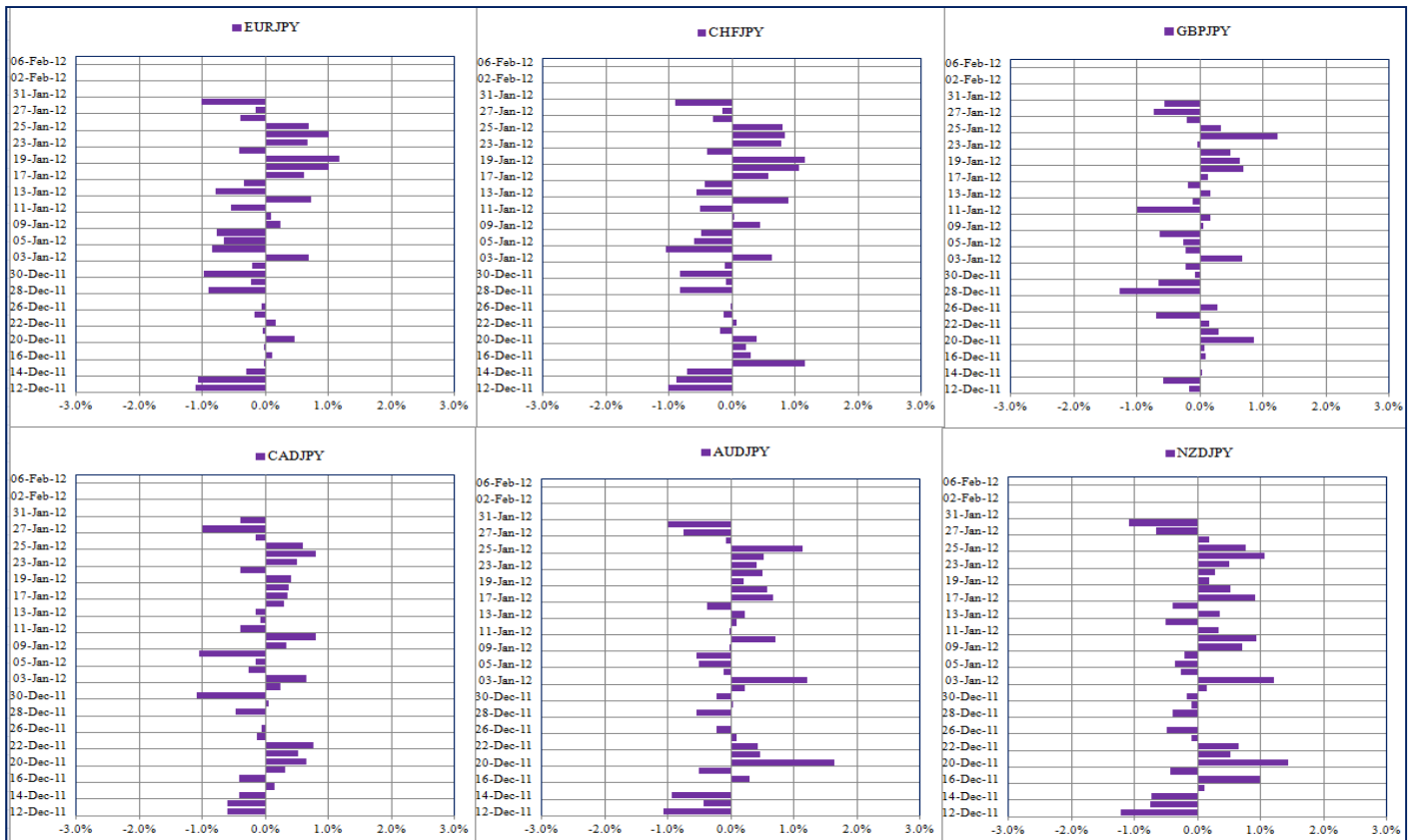
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の (Daily 変動率)、10年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



## 円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、  
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益をもたらしますが、損失をもたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。[www.gftforex.co.jp](http://www.gftforex.co.jp)

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011